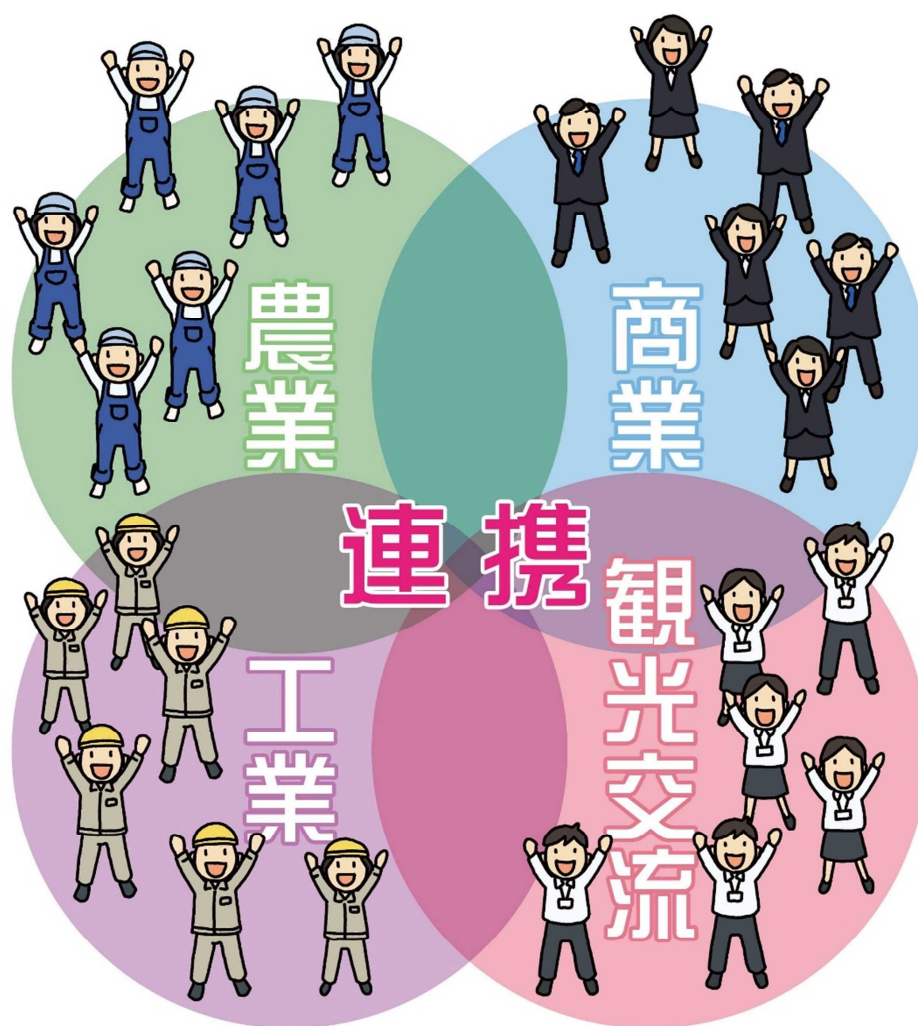


美唄市産業振興計画（第2次）

計画期間：令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度)

【概要版】



令和3年(2021年)3月

美 唄 市

第1章 計画策定の趣旨

1 策定の目的

- 本市では、平成25年に「美唄市産業振興計画（平成25年度～平成32年度）」を策定し、令和2年度（2020年度）へ向けた美唄の産業の目指す方向を取りまとめ、産業振興施策を推進してきました。
- 現在、本市産業は、少子高齢化の進行による人口減少社会の到来、地球温暖化問題、グローバル経済の進展、災害の大規模化等のほか、新型コロナウイルス感染症など厳しい状況に直面しています。
- 今般、本市産業が持続的に発展していく将来像を「目指す姿」として示した上で、その実現に向けた施策を地域産業の担い手である中小企業、農業者、労働者、関係団体等と連携して、産業振興施策を総合的に推進していくための関係者共通の指針として、美唄市産業振興計画（第2次、以下、本計画）を策定するものであります。

2 計画の位置付け

- 今後5年間における本市産業の振興に向けて、基本的な方向性や取り組むべき事項を明らかにし、効果的に施策を推進することができるよう、新たに策定するものです。
- なお、「美唄市観光ビジョン（平成30年度～令和3年度）」及び「美唄市農業ビジョン（令和3年度～令和7年度）」を策定しておりますが、本計画においては、分野横断的な産業振興を図る観点から、宿泊施設等の観光事業者や農業経営体等の振興に直接関わる施策内容を中心に盛り込むこととします。

3 計画期間

- 本計画の計画期間は、「第7期美唄市総合計画 前期基本計画」と同じ令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）までの5年間を計画期間とします。

第2章 美唄市産業を取り巻く社会経済情勢の変化

- 1 人口減少、少子高齢化の進行
- 2 新型コロナウイルス感染症拡大による影響
- 3 社会全体のデジタル化の進展とライフスタイルの変化
- 4 持続可能な開発目標（SDGs）の取組の広がり
- 5 「地方回帰」の意識の高まりと関係人口の裾野の広がり

第3章 美唄市産業の現状

1 美唄市産業の特性

- 農業産出額は、58 億円（過去 5 年間の平均値）となっており、農産物を原料とする食料品製造、肥料等の生産資材や農業機械、観光・流通など広範な産業と密接に結びついている中で、特に食料品製造業が本市の製造品出荷額等の 22%（35 億円）を占めていることから、本市農業は他産業への経済波及効果や域外からの需要獲得に大きな役割を果たしています。
- 農業の就業者数（平成 27 年国勢調査）は、1,433 人となっており、医療福祉の 1,631 人に次いで 2 番目の地位を占める就業者を雇用しており、本市農業は、雇用と所得の確保など市民の生活や地域経済を支えるリーディング産業として、本市経済の中で重要な位置を占めています。
- 本市工業は、様々な製造業（40 社）が集積し、製造品出荷額は 159 億円となっており、そのうち、プラスチック製品製造業（9 社）が占める割合は 40.7%と最も高く、次いで食料品製造業（8 社）が 22.3%、金属製品製造業（5 社）が 9.4%となっていることが特徴となっています。

2 中小企業

- 市内の企業を規模別でみると、従業員が 100 人未満の中小企業が大半を占めており、また、働く人の割合も高く、地域経済と雇用の担い手として重要な役割を果たしています。事業所数及び従業員数はともに減少傾向にあります。
- 2014 年から 2016 年の開廃業の動向を見ると、事業所は全体で 109 社減少しており、主な内訳は、医療・福祉で 17 社、卸売業・小売業で 16 社、宿泊業・飲食サービス業で 14 社、建設業で 10 社となっています。

3 商 業

- 本市商業は、人口減少に伴う消費購買力の低下に加え、インターネット購入等の拡大や消費者の購買形態が多様化しています。
- また、商業圏は、郊外型の大型店舗が立地する国道の東側地区に移行している状況となっているほか、市外へ消費が流出している状況にあります。

4 工 業

- 本市工業の製造品出荷額は 159 億円、事業所数は 40 事業所、従業員数は 773 人となっており、製造業の事業所数や従業員数は減少傾向にあるものの、製造品出荷額等は、平成 17 年よりほぼ横ばいで推移しています。
- 売上に対してどれくらいの粗利があるかを示す付加価値率は、令和元年の製造業全体が 37.6%で、全国平均(31.4%)、全道平均(26.7%)を上回っていますが、食料品製造業は 23.5%で、全国平均（34.1%）・全道平均(27.4%)を下回っており、本市の強みである農産物や食資源をうまく生かし切れていない状況にあります。
- 食料品製造業は、地域の強みや優位性のある農産物や食資源の活用等により、成長の可能性があることから、食や農産物のブランド化・付加価値を高め、販路拡大を図る取り組みを進めていく必要があります。

5 企業立地

- 企業立地の用地となる空知工業団地は、美唄市と奈井江町の行政境界にまたがり、昭和 59 年 2 月に分譲が開始され、現在（令和 2 年 12 月末現在）11 社が操業し、美唄市分 176 ha のうち、136ha（77.2%）が分譲されています。

6 農 業

- 農地面積は大きく変わらない中で、農家戸数の減少や高齢化が進行し、担い手農家の規模拡大が進んでいます。平成 7 年（1995 年）の 1 戸当たりの平均経営耕地面積は 8.6 ha でしたが、令和 2 年（2020 年）では 17.2 ha に拡大しています。
- 農産物の輸出状況は、米の香港への輸出が平成 23 年度（2011 年度）に始まり、令和元年度（2019 年度）は、ベトナムや中国（香港も含む）向けにおぼろづき、ななつぼし、きらら 397 を約 77 t 輸出しています。

7 関係人口・交流人口

- 観光入込客数は、平成 26 年度以降は 30 万人～31 万人で推移し、令和元年度は、39.7 万人に増加しました。一方、外国人宿泊者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、令和元年度に 531 人と前年比 55.8%の減少となりました。
- 米やアスパラガス・ハスカップ等の農産物のほか、「美唄やきとり」「とりめし」が地域の生活と風土に根差した食として、地域内外からの注目も集めており、国道 12 号線沿いに、これらの特産品を販売しているアンテナショップ PiPa 等が開設されています。

8 産業を担う人材の育成・確保

- 令和元年度の美唄市の平均有効求人倍率は上昇傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和 2 年（2020 年）12 月の国の労働力調査では完全失業率（季節調整値）が 2.9%、有効求人倍率（季節調整値）は 1.06 倍となっており、
- 職業別では、輸送・機械運転、サービス、建設などと事務職では求人側と求職側の条件が一致しない、雇用のミスマッチが依然として生じています。
- 正規労働者・非正規労働者の比率は、ほぼ横ばいで推移しています。また、正規労働者の構成比率が高いのは「運輸業（93.8%）」などで、一方、非正規労働者の構成比率が高い業種は、「飲食店、宿泊業」（75.0%）などとなっています。
- 令和 2 年（2020 年）の販売農家戸数は 486 戸で、5 年前の平成 27 年（2015 年）の販売農家数 593 戸からは 18.0%減少、平成 27 年度から 20 年前の平成 7 年（1995 年）の販売農家数 1,209 戸との比較では約 51%減少しています。

第4章 美唄市産業の主要課題

1 産業全般

- 産業の活性化を図るとともに、雇用の創出・確保
- 農業、商工業、観光・交流の各事業間の分野横断的な連携
- 地域産業の活力を生み続けることによる地域経済の好循環の創出

2 中小企業

- 事業活動の継続に向けて、経営基盤の強化や経営力の向上
- 市内企業の経営体質の強化や創業、事業承継の促進
- 各企業が有する強みを活かした業種連携や製品のデザイン手法やテストマーケティングの活用促進
- 新製品や新技術の開発等の促進による付加価値の向上

3 商 業

- 消費者の購買意識の変化等に対応するため、商業機能・サービスの充実
- 経営指導や事業承継を支援し、新たな事業展開へのチャレンジ精神に富む企業の育成
- 事業者や商工会議所などの関係団体との連携強化による、事業承継や空き店舗対策等の中心市街地の活性化

4 工 業

- 生産性の向上や技術力の強化、付加価値の高い製品開発や販路拡大
- 経営基盤の強化を図り、AIやIoT、ロボット技術等の先端技術の導入等による、人手不足への対応や生産性向上
- 本市の豊かな農産物や食の活用による、付加価値の高い商品開発、販路拡大

5 企業立地

- ホワイトデータセンターの事業拡張や関連するエネルギー事業、食関連産業の集積
- 美唄市の優位性を活かし、企業の活動拠点の移転などリスク分散の受け皿となる産業集積地域の形成に向けた企業誘致

6 農 業

- 消費者や実需者ニーズに対応した農産物の計画的かつ安定的な生産体制づくり
- 美唄型輪作体系の普及、高収益作物の生産拡大による生産性の向上
- スマート農業技術の現場実装の加速化
- 消費者に評価される農産物の生産と販路拡大の取組の推進
- 農商工連携や6次産業化の取組、地域ブランドの確立、農産物の輸出の拡大
- アスパラガスやハスカップ等の高収益作物の生産拡大
- 地域資源を活用した新たな商品開発、販路拡大

- 雪冷熱エネルギーによる農産物の貯蔵を通じた農産物・食品のブランド力の向上や端境期出荷による競争力の向上
- ふるさと納税の受入拡大

7 関係人口・交流人口

- 美唄ならではの食や自然、農村景観、歴史などの地域資源を活用した体験メニュー・観光商品の創出や、市内事業者等の連携による受入体制の整備
- 「ふるさと美唄応援団」の取組と連携しながら、美唄に所縁のある人や思い入れのある人などと呼び込み、多様な形でつながる関係人口の拡大

8 産業を担う人材の育成・確保

- 雇用のミスマッチに対する短期的、中・長期的な対応
- 新たな雇用の創出、確保に向けた取組、新規学卒者等の市内就職の促進や就職等への支援
- 若年層の雇用確保に加えて、就労意欲のある高齢者や障がい者の雇用、働く女性や子育て世帯に対する就労環境の整備及び季節労働者の通年雇用化などへの対応
- 外国人が安心して働き、暮らしやすい受入環境の検討
- 労働分野の制度改正について、企業者や労働者等への周知
- テレワークやワーケーションの受入環境の整備と誘致促進
- 担い手農家の経営体質の強化や農業法人の育成、農作業受託組織の強化
- 農業を支える多様な人材確保と女性農業者の活躍促進

第5章 目指す姿・基本方針

1 美唄市産業振興の基本的考え方

- 中小企業の事業継続力の強化
- 地域資源を活用した付加価値の創出
- 市内外や各産業との連携促進

2 美唄市産業の目指す姿

- 市内企業の事業継続力が強化されるとともに、市内で買い物をする人が増えています。
- 食関連産業や環境にやさしい雪冷熱エネルギーを活用した事業等が展開されています。
- いのちを育む力強い農業が営まれ、安全・安心な農産物が生産されています。
- 国内外からたくさんの人が美唄に滞在し、関係人口・交流人口が増えています。
- 多様な働き手が将来に希望を持って、誰もが安心していきいきと働ける職場になっています。

3 基本方針

- 基本方針1 市内企業の事業継続力の強化
- 基本方針2 美唄の優位性を生かした新たな企業の創出
- 基本方針3 いのちを育む食と農の振興
- 基本方針4 地域資源を活用した関係人口・交流人口の創出・拡大
- 基本方針5 産業を担う人材の育成・確保
- 基本方針6 各産業の相乗効果と発揮する横断的な取組

第6章 産業振興施策の展開方向

基本方針	施策の展開方向
1 市内企業の事業継続力の強化	(1) 中小企業の経営基盤の強化と付加価値向上 (2) 新製品やサービス、新技術開発等への支援及び創業・起業の促進 (3) 中心市街地の活性化
2 美唄市の優位性を生かした新たな企業・事業の創出	(1) ホワイトデータセンターや食関連事業等の立地促進 (2) テレワーク等の誘致促進 (3) スポーツを契機とする新たなビジネスの創出
3 いのちを育む食と農の振興	(1) 基幹作物等の安定生産 (2) 輪作体系の検証・確立 (3) 新たな高収益作物の導入 (4) 美唄産農産物・食品ブランド力の向上・販路拡大 (5) 農産物の輸出 (6) 農商工連携・6次産業化の促進
4 地域資源を活用した関係人口・交流人口の創出・拡大	(1) 関係人口・交流人口との繋がり創出・拡大 (2) 魅力的な滞在・体験コンテンツづくり (3) 受入体制の整備
5 産業を担う人材の育成・確保	(1) 企業を支える人材の育成・確保 (2) 就業環境の整備 (3) 担い手農家の育成・確保
6 各産業の相乗効果と発揮する横断的な取組	(1) 農商工業・観光業など各産業の連携強化 (2) シティプロモーションの推進 (3) ふるさと美唄応援団づくり等との連携

第7章 計画の推進体制

